

第2章 日ごろの子育てのようす

第1節 生活や学習習慣の自立状況

第2節 子どもの自立と保護者の満足度

第3節 子育ての時間

第4節 配偶者との関係、配偶者のかかわり

Benesse 教育研究開発センター研究員 鈴木 尚子



第1節 生活や学習習慣の自立状況

2007年まで低下傾向にあった子どもの自立と親の満足度は、今回、歯止めがかかった。一方で「計画的に勉強すること」「自分に合った勉強の仕方を工夫すること」などが「一人できる」比率は半数以下であり、起床・就寝、片づけや整理整頓とともに依然課題だ。

起床・就寝、片づけや整理整頓とともに 学習面での課題が目立つ

子どもの「日ごろの様子や生活習慣」に関する14項目について「完全に一人できる」「だいたい一人できる」「あまり一人ではできない」「まったく一人ではできない」の4段階でたずねた。このうち、9つの代表的な項目を「一人できる」比率（「完全に一人できる」+「だいたい一人できる」の%、以下同）が生活面、学習面のそれぞれで2011年に多い順番に並べたのが図2-1-1である。図では「あまり一人ではできない」「まったく一人ではできない」の回答と無回答・不明を省略している。

生活面で「一人できる」比率を過去の調査と比較すると、「身体を清潔にすること」2002年なし、2007年なし、2011年91.1%（以下同）、「あいさつやお礼を言うこと」88.7%、87.3%、87.9%、「翌日の学校の用意や準備」88.2%、86.1%、85.8%、「約束を守ること」81.4%、77.4%、77.4%、「決まった時間に起床・就寝すること」69.1%、65.9%、66.0%、「遊んだあとの片づけや部屋の整理整頓」58.3%、52.5%、55.7%であった。学習面で「一人できる」比率を過去と比較すると、「学校からのプリントを親に見せること」80.4%、77.1%、77.3%、「計画的に勉強すること」45.9%、45.2%、45.6%、「自分に合った勉強の仕方を工夫す

ること」38.2%（2011年のみ）であった。

前回の2007年の調査では、「一人できる」比率が2002年と比べやや減少傾向にあったが、今回実施した2011年の調査ではその傾向に歯止めがかかっている。

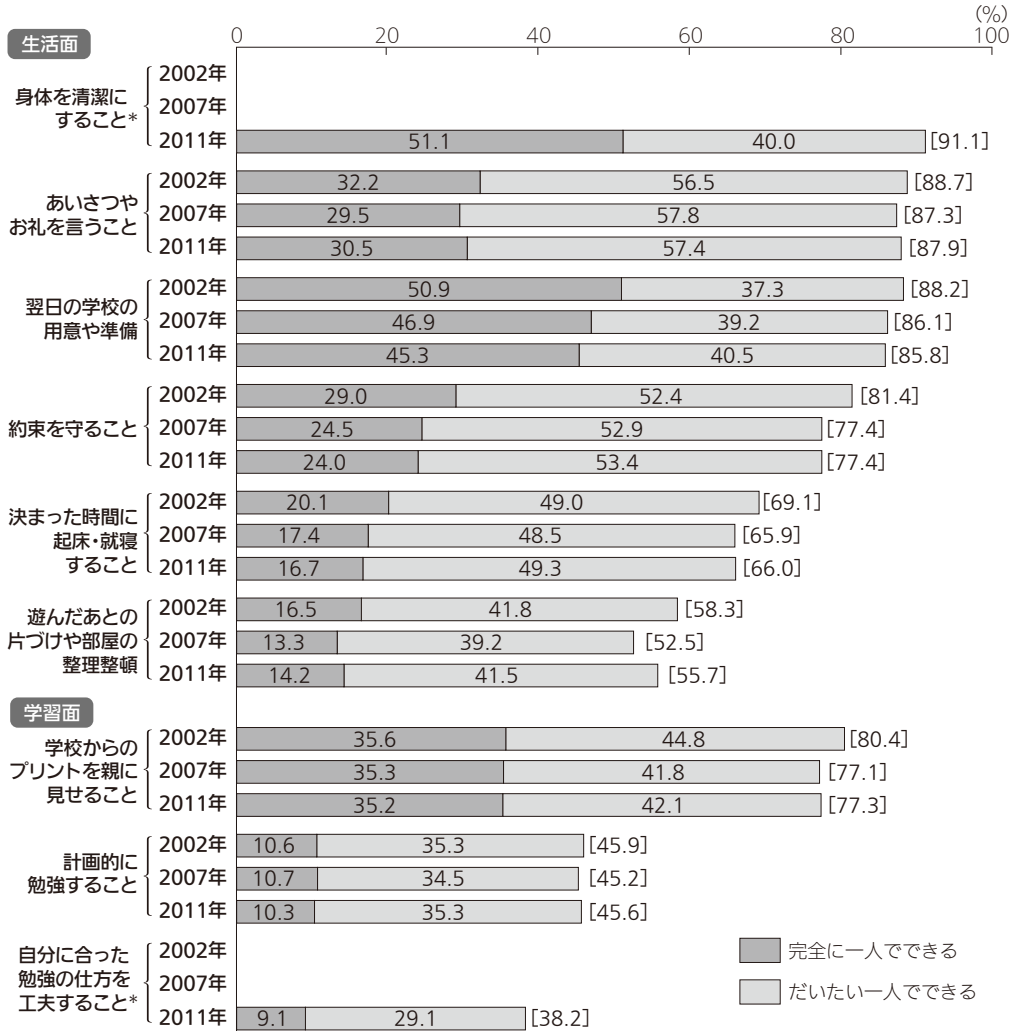
一方で「計画的に勉強すること」は「一人できる」比率が半数以下、「自分に合った勉強の仕方を工夫すること」は4割以下と保護者にとっては悩みの種といえそうだ。

これらの項目は小学生から中学生へと発達していく段階で、大きく変化する。そこで次節では、学年別の「一人できる」比率の推移を確認してみたい。

子どもの自立に対する保護者の満足度は 下げどまり

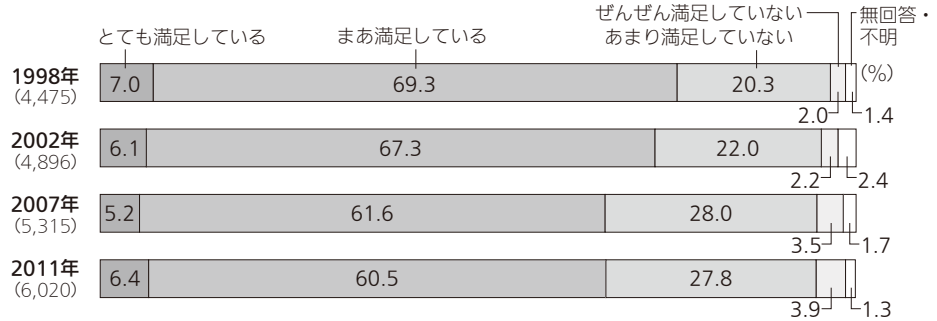
学年別の推移をみるまえに、子どもの自立に対する満足度の経年変化を図2-1-2で確認しておきたい。子どもの「生活習慣や自立の状況」についての満足度をたずねたところ、「満足している」比率（「とても満足している」+「まあ満足している」の%）は1998年76.3%、2002年73.4%、2007年66.8%、2011年66.9%である。前回まで低下傾向にあった満足度が下げどまりの結果となった。「一人できる」比率の減少傾向に歯止めがかかったように、保護者の満足度の低下傾向についても歯止めがかかっていることがわかる。

図2-1-1 一人でできること（経年比較）



注1) 14項目中9項目を图示した。
 注2) 「あまり一人ではできない」と「まったく一人ではできない」の数値は省略した。
 注3) []内は「完全に一人でできる」+「だいたい一人でできる」の%。
 注4) 1998年では該当質問項目なし。*印は今回初めて追加した。
 注5) サンプル数は2002年6,085人、2007年6,770人、2011年7,519人。

図2-1-2 生活習慣や自立状況への満足度（経年比較）



注1) 小3～中3生の数値。
 注2) ()内はサンプル数。

第2節 子どもの自立と保護者の満足度

子どもは成長とともに生活面でも学習面でも自立していく。学習面では小学生のあいだと中学生の後半に大きくのびる。「計画的に勉強すること」「自分に合った勉強の仕方を工夫すること」などは、子どもの自立に対する保護者の満足度と強く結びついている。

子どもは成長とともに生活面でも 学習面でも自立していく

子どもは成長とともに生活面でも学習面でも「一人立ち」していく。前節でみた項目のうち、いくつかについて学年別にみてみたのが図2-2-1である。「決まった時間に起床・就寝すること」「遊んだあとの片づけや部屋の整理整頓」は、なだらかながらも学年とともに「一人でできる」比率が増加する傾向にある。「計画的に勉強すること」「自分に合った勉強の仕方を工夫すること」は、とくに中1生から中2生のあいだののびが少ない。学習よりも、中学に入って新しく取り組み始める部活動や新しい人間関係などに気持ちが向く時期ということもありそうだ。しかし、その後高校受験を控えた中3生で大きく上昇する。

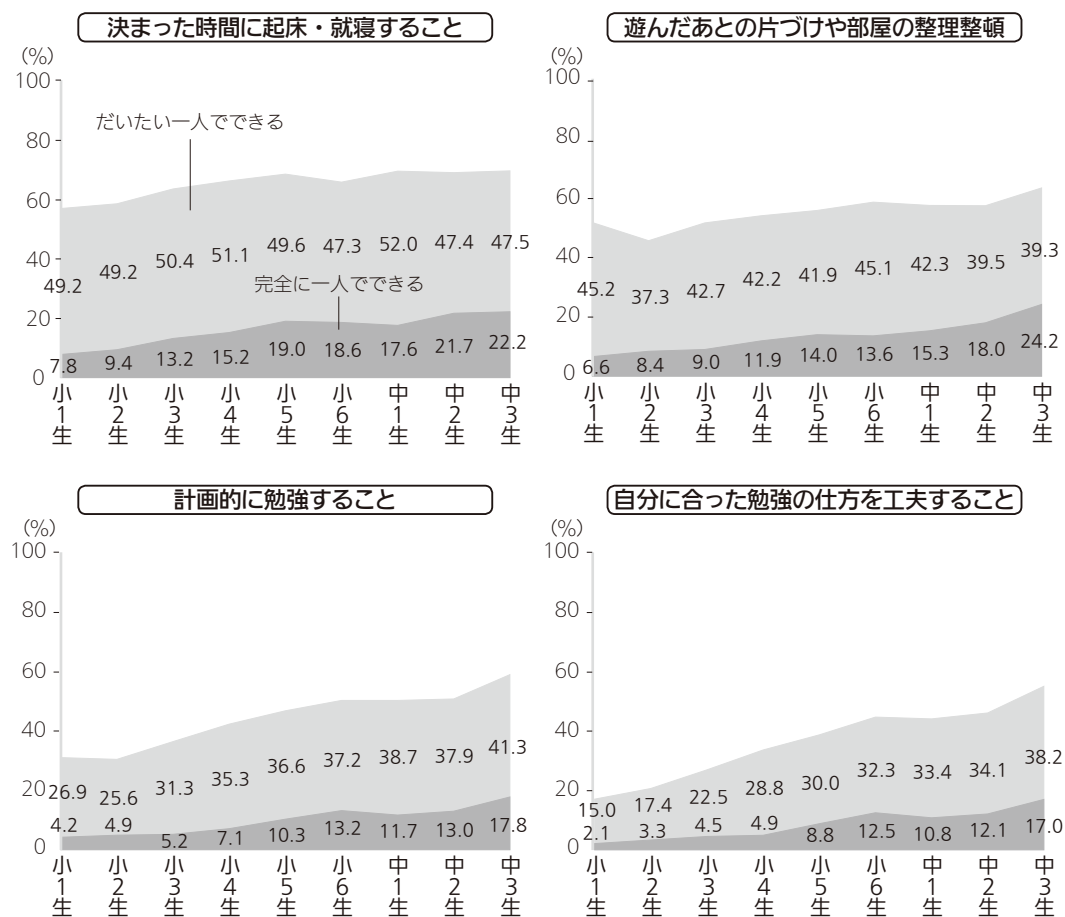
子どもの自立に対する保護者の満足度は 学習面での自立と強く結びつく

子どもの生活習慣や自立に対する保護者の満足度は、子どもの生活面や学習面の自立状況（14項目）のどのような点と強く結びついているのだろうか。そこには小・中学生で違いはみられるのだろうか。両者の

結びつきをみるために相関を調べたのが表2-2-1である。小学生、中学生ともに14項目すべてと生活習慣や自立に対する満足との間に、1%水準で有意な相関がみられた。そのなかでも相関係数がとくに高いものは、小学生、中学生ともに「計画的に勉強すること」（相関係数は小学生0.500、中学生0.565、以下同）、「自分に合った勉強の仕方を工夫すること」（0.451、0.550）、「約束を守ること」（0.431、0.493）であった。小学生では「遊んだあとの片づけや部屋の整理整頓」（相関係数0.424、以下同）「翌日の学校の用意や準備」（0.415）が続き、中学生では「学校からのプリントを親に見せること」（0.446）、「自分の予定を把握すること」（0.438）が続く。保護者の満足度は、生活面よりもどちらかといえば学習面での自立と強く結びついていることがわかる。これは小・中学生に共通してみられる傾向である。

反対にとくに相関係数が低いものは「あいさつやお礼を言うこと」（相関係数は小学生0.253、中学生0.278、以下同）、「乗り物や路上などでのマナー」（0.295、0.293）である。大多数の子どもが「一人でできる」ことがおもな要因と考えられる。

図2-2-1 一人でできること（学年別）



注1) 14項目中4項目を図示した。
 注2) サンプル数は小1生666人、小2生691人、小3生689人、小4生751人、小5生673人、小6生721人、中1生1,181人、中2生1,170人、中3生935人。

表2-2-1 保護者の満足度と一人でできることの相関（学校段階別）

		決まった時間に起床・就寝	あいさつやお礼	食事のマナー	身体を清潔にすること	遊んだあとの片づけ	翌日の準備	約束を守る	自分の予定を把握	無駄づかいしない	乗り物や路上のマナー	丁寧な言葉づかい	計画的に勉強	自分に合った勉強を工夫	学校のプリントを見る
生活習慣や自立状況への満足度	Pearsonの相関係数	.366**	.253**	.373**	.323**	.424**	.415**	.431**	.400**	.308**	.295**	.349**	.500**	.451**	.409**
	N	4,126	4,134	4,114	4,111	4,123	4,120	4,123	4,114	4,058	4,119	4,110	4,116	4,104	4,132

		決まった時間に起床・就寝	あいさつやお礼	食事のマナー	身体を清潔にすること	遊んだあとの片づけ	翌日の準備	約束を守る	自分の予定を把握	無駄づかいしない	乗り物や路上のマナー	丁寧な言葉づかい	計画的に勉強	自分に合った勉強を工夫	学校のプリントを見る
生活習慣や自立状況への満足度	Pearsonの相関係数	.381**	.278**	.337**	.331**	.424**	.419**	.493**	.438**	.385**	.293**	.329**	.565**	.550**	.446**
	N	3,133	3,133	3,121	3,118	3,119	3,118	3,129	3,132	3,127	3,123	3,122	3,129	3,122	3,126

注1) ** 相関係数は1%水準で有意(両側)。
 注2) 項目は一部、略記した。詳細は調査票見本を参照。

第3節 子育ての時間

放課後、小学校低学年では15時頃、中学年では16時頃、高学年では17時頃から、半数を超える母親が子どもと一緒にいる。中学生になると遅くなり18時頃からとなる。母親の就業状況別にみると、小学生では就業状況による差が大きい、中学生になると差が小さくなる。

崩れはじめた女性の就業率における

M字型カーブ

母親が専業主婦として働く選択よりも、社会に出て働くという選択をとるようになってきた。この「子育て生活基本調査」を始めた1998年当時は、女性の年齢階級別就業率はいわゆるM字型カーブをはっきりと描いていた（総務省統計局「労働力調査 長期時系列データ」p.122 図参照）。たとえば1998年には女性の年齢階級別就業率は20～24歳の73.4%を最初のピークにして下がり始め、30～34歳で55.8%とM字のくぼみを描く。その後、再び上昇し40～44歳で70.2%であった。

10年以上経過した今、このM字型カーブは明らかに崩れつつある。2010年の同調査によれば、年齢階級別就業率の最初のピークは25～29歳の77.1%となり、その後なだらかに下降して35～39歳で一番の底（66.2%）、40～44歳では71.6%と再び上昇していく。母親が社会進出をするなか、子どもとかかわる時間はどのように変わるのであろうか。

子どもの成長とともに一緒にいる時間帯が遅くなる

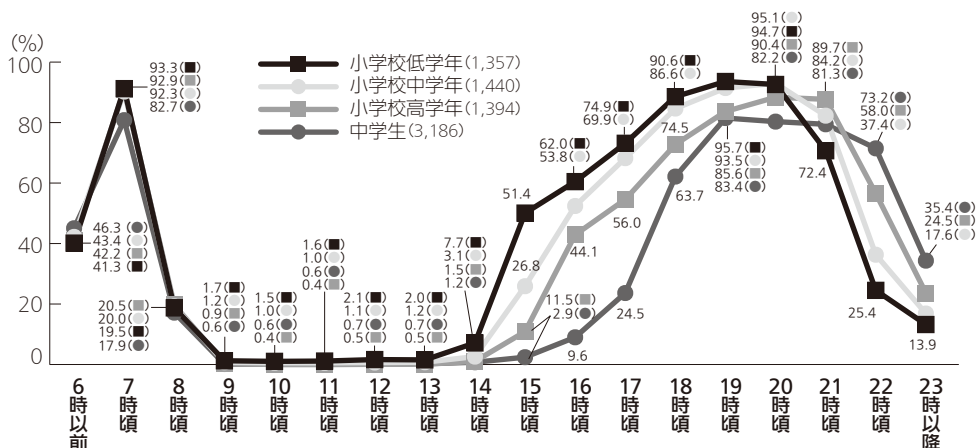
子育てにおける基本的な情報を得るために、今回は平均的な1日（平日）における子育て時間についてたずねている。図2-

3-1は「お子様と一緒にいる時間帯は、いつですか」という問いに対して「6時以前」から「23時以降」までの間に1時間刻みの選択肢を用意し、複数回答で母親の回答を得たものだ。学年段階別にみると、放課後に半数を超える母親が子どもと一緒にいるようになる時間帯は、小学校低学年15時頃、中学年16時頃、高学年17時頃であり、子どもの学年段階があがるにつれ遅くなる。中学生になるとさらに遅くなり、子どもと一緒にいる母親の比率が半数を超えるのは18時頃からである。子どもの自立度が高まり、部活動や塾など子どもが親を離れて活動することが多くなるためだと考えられる。

母親の就業状況別にみたのが、図2-3-2である。子どもが小学生で母親が専業主婦の場合、15時頃46.5%、16時頃74.2%、17時頃84.0%であるが、常勤の母親の場合、17時頃でも18.7%、18時頃58.5%、19時頃85.3%と、母親の就業状況により大きな差がみられる。しかし、子どもが中学生になると、母親が専業主婦の場合でも17時頃31.8%、18時頃69.4%、19時頃86.1%と遅めの時間に集中し、常勤の母親の18時頃41.7%、19時頃75.8%と小学生ほどの大きな差がなくなる。

今後、10年、20年と時間が経過するなかで、母親の社会進出が進み、子どもの育つ環境は変わっていくだろう。そのなかで、保護者（とくに母親）と子どものかかわりはどのように変化していくのか。このよう

図2-3-1 子どもと一緒にいる時間帯（学年段階別）

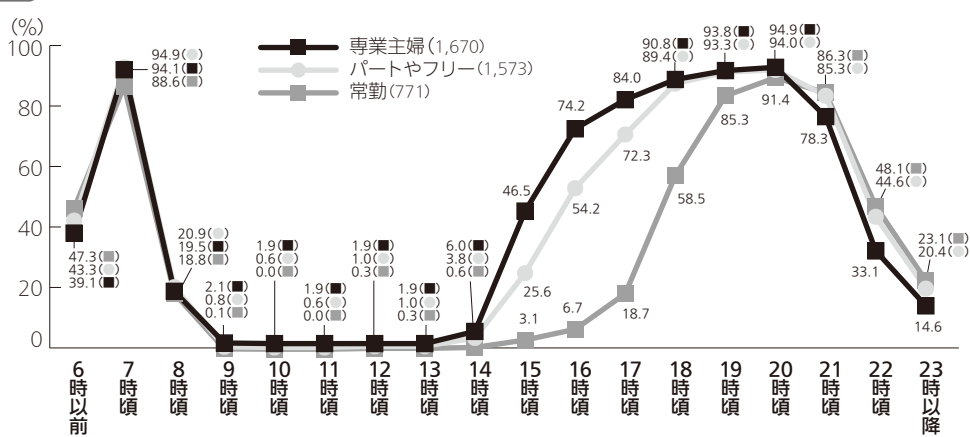


注1) 複数回答。一緒にいる時間は、「子どもが目届く範囲の同じ空間にいる時間」と定義した。

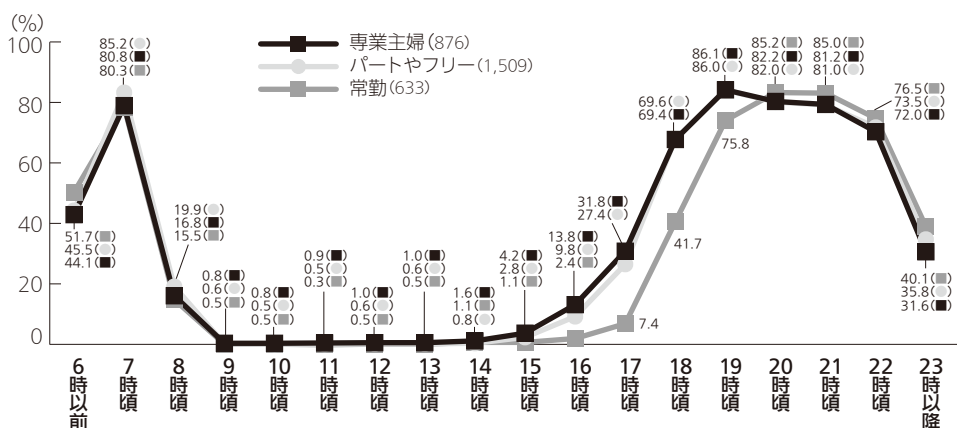
注2) () 内はサンプル数。

図2-3-2 子どもと一緒にいる時間帯（学校段階別／母親の就業状況別）

小学生



中学生



注1) 複数回答。一緒にいる時間は、「子どもが目届く範囲の同じ空間にいる時間」と定義した。

注2) () 内はサンプル数。

な時間という客観的な指標を定点でとって把握していきたい。

.....
子どもの成長とともに一緒にいる時間は短くなる
.....

子どもと一緒にいる時間帯につづいて、「お子様と一緒にいる時間は、合計すると1日どれくらいですか」と、子どもが目届く範囲の同じ空間にいる時間（量）をたずねた。一緒に食事をする、テレビを見る、子どもが遊ぶ近くで家事をするなど、母子が同じ空間を共有する時間はどれくらいあるのか。

図2-3-3によると、回答の分布にはばらつきがあるが、小学校低学年の母親で一番回答が多かったのは「7時間」21.3%、つづいて「6時間」17.9%。中学年は「6時間」20.4%、「7時間」20.3%。高学年は「6時間」22.3%、「5時間」18.1%。中学生は「5時間」23.0%、「6時間」18.7%。平均時間は小学校低学年407.9分、中学年387.8分、高学年369.2分、中学生319.4分と子どもの成長とともに一緒にいる時間は短くなる。

.....
中学生になると66%の親が勉強をほとんどみない
.....

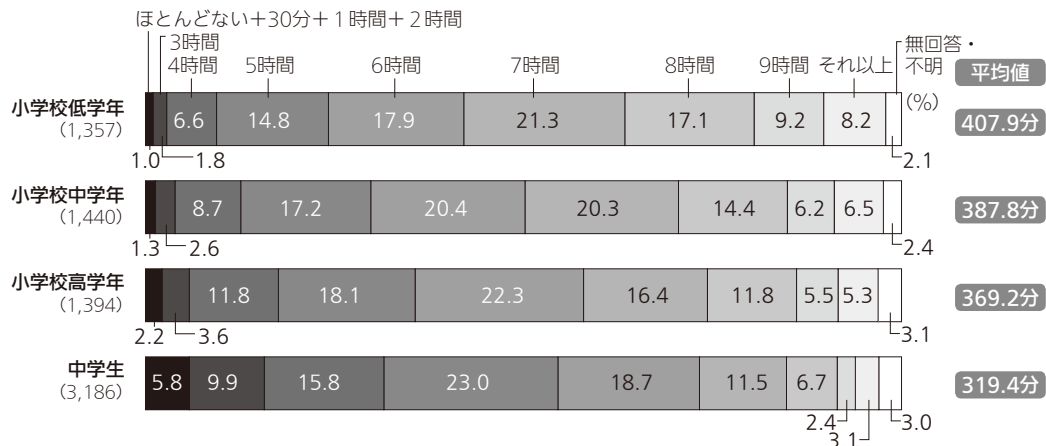
次に、子どもの勉強をみる時間の合計を

たずねた（図2-3-4）。平均時間をみると、小学校低学年は32.7分、中学年は30.8分、高学年は24.4分、中学生は10.9分と、学年段階による差がみられ、中学生になると大きく減少する。回答の分布をみると、小学校高学年の時点では、子どもの勉強をみるのが「ほとんどない」母親が32.0%であるが、「30分」も25.4%である。この頃から家庭による違いがみられるが、中学生になると「ほとんどない」が66.0%となり、小学生と比べて大幅に増加している。

.....
自分で使える自由な時間は子どもが成長しても大きくは変わらない
.....

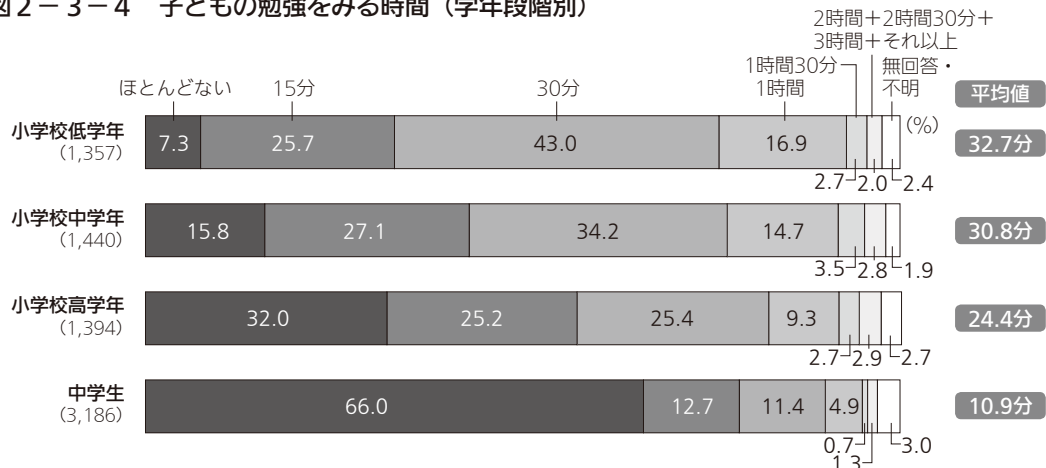
母親が自分自身のために使える（自由な）時間は、子どもが成長しても大きくは変わらない。回答の分布にはばらつきがあるが、平均時間をみると、小学校低学年は115.8分、中学年は117.3分、高学年は117.4分、中学生は125.4分と、中学にあがると10分弱増えるものの、小学生のあいだはとくに大きくは変わらない（図2-3-5）。図表は省略しているが、むしろ母親の就業状況別にみた場合に差がみられた。

図2-3-3 子どもと一緒にいる時間（学年段階別）



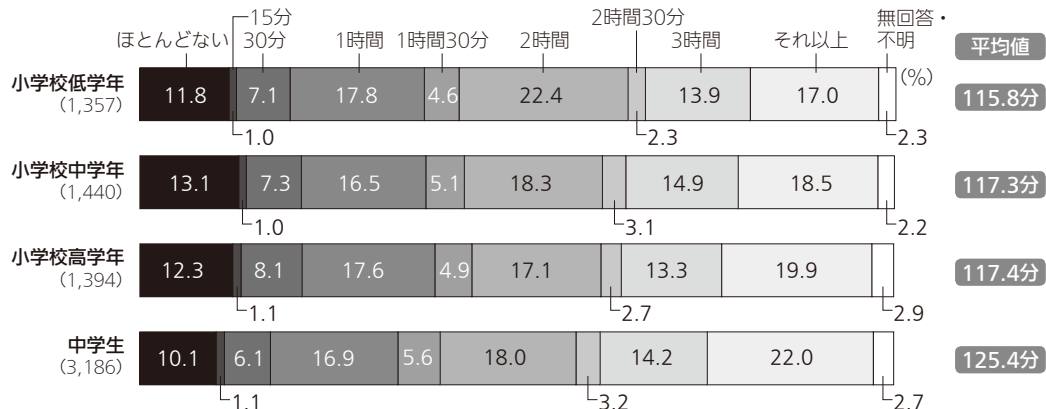
注1) 一緒にいる時間は、「子どもが目の届く範囲の同じ空間にいる時間」と定義した。
 注2) 平均時間は「ほとんどない」を0分、「1時間」を60分、「それ以上」を600分のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出した。
 注3) ()内はサンプル数。

図2-3-4 子どもの勉強をみる時間（学年段階別）



注1) 平均時間は「ほとんどない」を0分、「15分」を15分、「それ以上」を210分のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出した。
 注2) ()内はサンプル数。

図2-3-5 自分で使える自由な時間（学年段階別）



注1) 平均時間は「ほとんどない」を0分、「15分」を15分、「それ以上」を210分のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出した。
 注2) ()内はサンプル数。

.....
**子どもと一緒にいる時間は学年段階や
母親の就業状況により大きく異なる**
.....

子どもと一緒にいる時間について、母親の就業状況別に平均時間をみたのが表2-3-1である。小学校低学年の場合、専業主婦443.1分と常勤305.8分のあいだに約2時間20分の差がある。この差は子どもの成長とともに縮小していく。中学生の場合、専業主婦328.8分と常勤289.5分のあいだは約40分の差である。

.....
**子どもの勉強をみる時間は
母親の就業状況による差は10分以下**
.....

子どもの勉強をみる時間については、図2-3-4で学年段階による差があることを確認した。では、母親の就業状況別にみた場合にはどうだろうか(表2-3-2)。小学校低学年の場合、専業主婦34.5分と常勤27.3分のあいだには約7分の差がある。中学生の場合には専業主婦11.6分、常勤9.6分と、その差は約2分にまで縮まる。子どもの勉強をみる時間については、母親の就業状況別にみた場合、小学校のあいだは若干の差がみられるが、その差は10分以下とあまり大きくはない。子どもと一緒にいる時間が長い専業主婦の家庭で、その分だけ

長く勉強をみているとは一概にいけないようだ。

.....
**子育ての楽しさは自分の成長および
子どもの自立と結びつきが強い**
.....

第1回の1998年調査から、「あなたは毎日の子育てが楽しいですか」という問いを毎回設けている。この問いについて経年で見ると(図2-3-6)、「とても楽しい」と回答する親は2割前後で一定している。「まあ楽しい」と回答する母親も約65%~70%と1998年から大きな変化はみられていない。今回も「とても楽しい」20.1%、「まあ楽しい」67.2%と、2007年と同様の傾向であった。

母親が子育てを「楽しい」と感じるのは、どういうときか。日ごろの生活のなかでしていること、感じていることとの相関をとった(表2-3-3)。すると、子育ての楽しさととくに結びつきが強いのは、小学生でも中学生でも子どもの生活習慣や自立状況への満足度と「子どもをもつことによって自分自身が成長したとを感じる」ことであった。母親が自分自身の成長や子どもの成長を実感することが、子育ての楽しさにつながっているといえそうだ。

表2-3-1 子どもと一緒にいる平均時間（学年段階別／母親の就業状況別）

	専業主婦	パートやフリー	常勤
小学校低学年	443.1	414.0	305.8
小学校中学年	417.0	398.7	294.9
小学校高学年	392.7	383.1	295.1
中学生	328.8	326.3	289.5

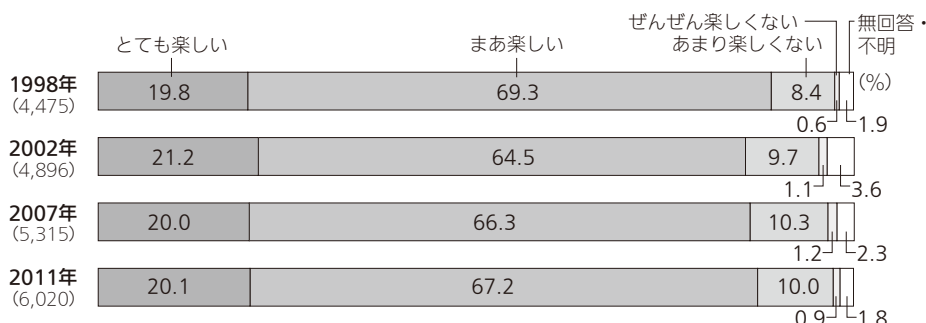
(分) 注1) 一緒にいる時間は、「子どもが目届く範囲の同じ空間にいる時間」と定義した。
 注2) 平均時間は「ほとんどない」を0分、「1時間」を60分、「それ以上」を600分のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出した。
 注3) サンプル数は、小学校低学年（専業主婦637人、パートやフリー431人、常勤242人）、小学校中学年（専業主婦568人、パートやフリー561人、常勤253人）、小学校高学年（専業主婦465人、パートやフリー581人、常勤276人）、中学生（専業主婦876人、パートやフリー1,509人、常勤633人）。

表2-3-2 子どもの勉強をみる平均時間（学年段階別／母親の就業状況別）

	専業主婦	パートやフリー	常勤
小学校低学年	34.5	33.3	27.3
小学校中学年	34.3	28.6	26.9
小学校高学年	27.8	24.3	18.3
中学生	11.6	11.1	9.6

(分) 注1) 平均時間は「ほとんどない」を0分、「15分」を15分、「それ以上」を210分のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出した。
 注2) サンプル数は、小学校低学年（専業主婦637人、パートやフリー431人、常勤242人）、小学校中学年（専業主婦568人、パートやフリー561人、常勤253人）、小学校高学年（専業主婦465人、パートやフリー581人、常勤276人）、中学生（専業主婦876人、パートやフリー1,509人、常勤633人）。

図2-3-6 子育ての楽しさ（経年比較）



注1) 小3～中3生の数値。
 注2) () 内はサンプル数。

表2-3-3 子育ての楽しさと子どもの自立などとの相関（学校段階別）

小学生		生活習慣や自立状況への満足度	子どもと一緒に遊ぶ	子どもに一日のできごとを聞く	子どもと一緒に出かける	子どもが成長したと感じる	自分自身が成長したと感じる	つい不安になることがある	何を考えているかわからない	干渉しすぎてしまう	感情的にしかってしまう
子育ての楽しさ	Pearsonの相関係数	.298**	.272**	.180**	.156**	.277**	.357**	-.274**	-.269**	-.093**	-.268**
	N	4,073	4,068	4,084	4,080	4,077	4,081	4,083	4,080	4,080	4,082

中学生		生活習慣や自立状況への満足度	子どもと一緒に遊ぶ	子どもに一日のできごとを聞く	子どもと一緒に出かける	子どもが成長したと感じる	自分自身が成長したと感じる	つい不安になることがある	何を考えているかわからない	干渉しすぎてしまう	感情的にしかってしまう
子育ての楽しさ	Pearsonの相関係数	.346**	.284**	.197**	.211**	.289**	.330**	-.313**	-.304**	-.126**	-.285**
	N	3,080	3,064	3,089	3,088	3,088	3,098	3,092	3,094	3,093	3,094

注1) ** 相関係数は1%水準で有意(両側)。
 注2) 項目は一部、略記した。詳細は調査票見本を参照。

第4節 配偶者との関係、配偶者のかかわり

配偶者が子育てに「とても協力的」と感じる母親は25.2%、「まあ協力的」は44.3%。2007年からの大きな変化はみられない。父親が子育てに協力的と母親が感じるかどうかは、父親が「子どもと一緒に遊ぶ」かどうかと強く結びついている。

夫婦で関心事を共有する家庭は約6割で、 2007年と比較して大きな変化はない

本報告書における分析は、母親の回答のみを使用したものであり、おもに母親の子育てについてフォーカスしたものである。では、配偶者たる父親のかかわりはどのようか。この関心事のもとに、「ふだんからご夫婦でお互いの関心事について話し合うことがありますか」とたずねると（図2-4-1）、2011年は「よく話し合う」21.1%、「まあ話し合う」41.7%で、両者を合わせると約6割の母親が関心事について「話し合う」と回答している。2007年でも合わせて64.6%が「話し合う」と回答しており、大きな変化はみられなかった。

父親が子育てに協力的な家庭は7割弱で、 2007年と比較して大きな変化はない

「あなたの配偶者は、子育てに協力的だと思いますか」とたずねると（図2-4-2）、2011年は「とても協力的」25.2%、「まあ協力的」44.3%で、両者を合わせると7割弱の母親が父親は「協力的」と回答している。2007年でも合わせて70.8%が「協力的」と回答しており、大きな変化はみられなかった。

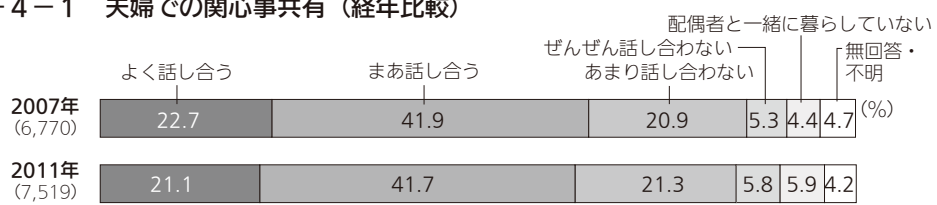
母親の評価は、父親が「子どもと一緒に遊ぶ」 かどうかと結びつく

2011年の調査では、新たに父親がどの程度子育てにかかわっているかをたずねている。具体的には「子どもと一緒に遊ぶ」「子どもに勉強を教える」「炊事や洗濯などの家事をする」などの項目について、「よくある」「時々ある」「あまりない」「ぜんぜんない」「配偶者と一緒に暮らしていない」と頻度をたずねた。小1～中3生の全体でみると、「ある」（「よくある」＋「時々ある」）と回答した比率は、「子どもと一緒に遊ぶ」63.9%、「子どもに勉強を教える」45.7%、「炊事や洗濯などの家事をする」45.6%である。とくに「子どもと一緒に遊ぶ」は子どもの成長とともに頻度が低下していく。一方、「炊事や洗濯などの家事をする」は子どもの学年による変化が少なく、45%前後で一定している（図表省略）。

これらの3項目と、母親が「協力的」と感じる程度との相関をみてみた（表2-4-1）。すべての項目で有意な相関がみられたが、小学生でも中学生でも「子どもと一緒に遊ぶ」かどうか、一番相関係数が高く、結びつきが強いことがわかった。これをクロス集計で確かめたのが図2-4-3である。

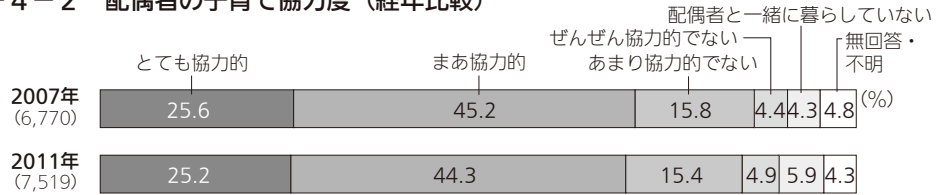
父親が子どもと遊びでふれあうことが子育てには大切と母親が感じているのか、または、最低限子どもと遊んで欲しいと願っているのか、この結果からだけではわからない。

図2-4-1 夫婦での関心事共有（経年比較）



注) () 内はサンプル数。

図2-4-2 配偶者の子育て協力度（経年比較）



注) () 内はサンプル数。

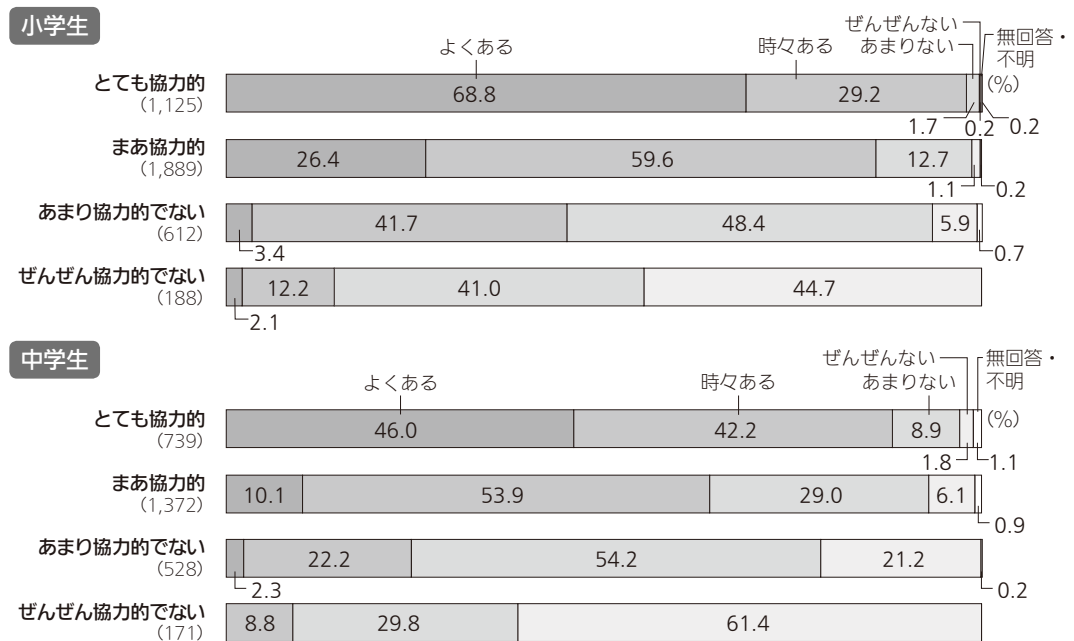
表2-4-1 父親の協力に対する母親評価と父親のかかわりの相関（学校段階別）

小学生		中学生		
	Pearsonの相関係数	子どもと一緒に遊ぶ	子どもに勉強を教える	炊事や洗濯などの家事をする
父親は子育てに協力的か		.634**	.489**	.447**
	N	3,804	3,806	3,804

	Pearsonの相関係数	子どもと一緒に遊ぶ	子どもに勉強を教える	炊事や洗濯などの家事をする
父親は子育てに協力的か		.588**	.465**	.417**
	N	2,789	2,795	2,791

注) ** 相関係数は1%水準で有意(両側)。

図2-4-3 父親が「子どもと一緒に遊ぶ」頻度（学校段階別／母親の評価別）



注1) 「あなたの配偶者は、子育てに協力的だと思いますか」の質問に対する回答別に集計。「配偶者と一緒に暮らしていない」は図から省略した。

注2) () 内はサンプル数。